

第四回 学校運営協議会議録(要点記録)

- 1 開催日時 2023年2月24日(金) 13時30分から15時30分まで
- 2 会議場所 芳川小学校 多目的室
- 3 出席委員 佐藤祐輔、間宮年弘、鈴木幸彦、犬居和賀代、林容子、鈴木麻里
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 古橋一哲 (南陽協働センター)
- 6 学校 澤田正樹(校長)、池端一容(教頭)、榛葉崇文(CS担当職員)
- 7 教育委員会 鈴木陽子(教育総務課)
- 8 傍聴者 なし
- 9 協議事項 (1)学校関係者評価について
(2)学校運営協議会の自己評価について
(3)来年度の学校運営の基本方針の説明
- 10 会議録作成者 CS担当職員 榛葉崇文
- 11 会議記録

司会の池端から、委員総数 6 人全員の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 議長の選出について

司会から議長の選出について前回の協議に於いて全員異議なく選任及び承認された旨の確認をした。

会長あいさつ

始めてちょうど1年前になる。1年目は学校を知り、2年目は熟議を行う。会を進めていくことで学校が変わった・子どもが変わったとなっていくといいと思う。この協議会ではフレンドリーに何でも話せる、今どうなっているのかを自分の言葉で話せるそんな場で行きたいと思う。

校長あいさつ

学校の方針に対して応援していただいたことに感謝申し上げます。今日は本年度の総括と来年度へ向けての話し合いをお願いします。

議長の選出

前回

- (2) 学校関係者評価について
- (3) 学校運営協議会の自己評価について
- (4) 来年度の学校運営の基本方針の説明

委員からは以下の発言があった。

学校関係者評価について

・校外生活について

・教師について

(間宮)「ひいき」があることについて、教師は平等にやっているつもりでも、子どもはそう感じていないという実態があるのでは？子どもに合わせて課題を考えていくことも必要。子ども目線での平等を是非考えて欲しい。その子の実態をつかんでいるのも担任であることから、同じ課題が必ずしも平等ではないことを先生方にも考えるきっかけとしてほしい。(先輩から指導されたこともあるが、現在はそう言った機会は少ないのかもしれないが)

(麻里)平等の概念が覆されたと感じる。特別感ではなくその子に合った指導が平等と言われるととても納得する。やり方次第で子どもの満足感がでる。

(間宮)子どもはひいきする先生は嫌いなはず。どういったものが平等かについて、子ども目線での取り組みについて教師間でも話し合ってほしい。

(幸彦)子どもの実態を把握したうえで取り組むことがとても大事。登下校の時に行うコミュニケーションが取れていない家庭が多い(把握できていない)。素直に話ができている環境にあるかが心配。下校時の様子について保護者が注意してくれた。興味を持って子どもに関わってくれととてもうれしい。親からも言うことで関心を持っていることを子どもに感じさせることが大切。周りめぐって保護者への示しにもなる。

(佐藤)平等の定義を聞いて「先生は本当に大変だな」と感じた。「子どもへの声掛けが大切だな。」とも思った。「最近どう？」と話しかけ子どもと関係を持つことが大切だと改めて感じた。今日の登校では7:30分には登校していて、子どもにフランクに話しかけ、子どもの今の様子を探ることができた。通学班について新6年が二人でリーダーを行うのではなく、新5年からリーダーを出したいという思いがある。いきなりリーダーではなく準備期間を設けてあげることが必要ではないかと。現行では早すぎる登校だが、8時までに登校できればいいですよということをもっと広めたい。保護者でも知らない家庭が多いのではないと思う。まだ間に合うならば、リーダーや時間についても考えていく必要がある。再来年度は始業時間につ

いてももっと周知したい。

地下道から内藤製菓までの道に安全带ができた。安全のため誰かが言ってくれたと思うと感謝しかない。

(犬居)平等とは本当に難しい「皆に平等であれ」取り組む人が本当に考えていないとできないこと。

いじめについて地域の母親の話から:親同士がうまくいかないことについて、子ども同士が仲たがいしているという。親のもめごとに子どもが巻き込まれていることがあると小耳にはさんだ。一方的な情報なので確かめるのは難しいが、どうしていくべきか悩んでいる。親が先生の批判を子どもの耳に入れていることが気になる。

(校長)大人が決めつけてしまうことがあったのは事実。当事者に直接会って何度も話し合いをしていった経緯があり、現状に至る。

平等については直接職員にも伝えていく予定。

(幸彦)子ども会の人数が激減している。親同士のかかわりがうまくいかないことがその理由として挙げられる。うわさを流す人がいることで入ることをためらっているとのこと。自治会でも同じようなことが起きている。学校でも起こるのは分かる。

(佐藤)子ども会やPTAも任意では入れるが、どの子も平等に接することが大事。

(林)率直な意見がたくさん並んでいる。保護者目線でも学校改善していくとの話であったが、職員としてグサッと刺さるものがあると思う。アンケートのフィードバックを丁寧に行っていることをすぐに出していることがいいと感じた。

(間宮)子どもが言ったことをそのまま受け取り、それを学校に伝える保護者に対しても、また、保護者の心に対しても学校が意識をしていくことが必要。褒めることに対しても教師が把握したうえで、「褒める」。皆の前で褒めるのは必ずしも良いことではない。と先輩から教えていただいたことを思い出した。子どもの安全に対しても実際に変化すること→動くことが大事。15分のゆとりについて子どもに幸せ・先生も幸せ、になると良いと感じた。

(麻里)アンケートを良いことだけでなく指摘に対してもしっかり見せることで安心感につながると思う。

「学校運営協議会の自己評価について

(佐藤)評価項目1について

単刀直入に言うと「できた」と言える。いろいろな目線で話し合うことがとても新鮮で考えが広まった。

(間宮)子どもが幸せ→子どもの将来も幸せとなっていくべき。どんな力が必要か。どんな時にどんな力が必要かを考えていく必要がある。目標と手段が切り替わらないようにしたい。子どもたちも夢の持ち方を、「〇〇だから▲▲になりたい」となっていきたい。通学路も安全に移動できるための道、でも子どもは近い道を通りたい。なぜ安全な道を通ることが必要なのかを考

えさせることが大事。目標と手段をきちんと分けることが大事。目標のために手段をどんどん変化させることができる。手段を工夫していくことで伸びや自信が実感できる。人に言われても変えることができないのはそこかと感じる。目標と手段を考えてもらいたいと思う。

(佐藤)成功体験だけでなく失敗体験もした方がいいのではないかと。立ち上がれそうにないことでも自分が経験したことで乗り越えられるツール(手段)を身に付けさせたい。立ち直るきっかけを親も学んでいきたい。それが子どもたちの幸せにつながると考える。先生から叱られることがあったが、何が悪かったのか、次に何を变えたらいいのか道筋を示してほしい。

(幸彦)大人も知らん顔をしていることが多くなってしまった。いけないことはいけないと大人であつたら注意できる地域でありたい。失敗したら失敗したことが分かるよう注意してあげること、知らない子に話しかけるのは難しいかもしれないけど。

(間宮)毎日ごみをひろえる大谷選手、女子バスケの「努力が必ず報われるとは思っていない」と努力を続ける選手、藤井風さんのように「自分の中の理想の自分」を歌った歌手。生き方が素晴らしい大人が多いからこそ、手本として教育に取り入れたいと感じる。

(佐藤)評価項目2・評価項目3

これも「できた」と思う。「ほうがわクスノキ応援団」の取り組みや大人の姿を子どもに見せていくことで支えられていることが実感できたのではないと思う。情報を共有する場として傍聴したり、職員が参加したりして活用できたら良いと思う。校長先生の熱量で子どもが1年もたたないうちに変わった。先生が変わったとしても引き継いでいく環境や、子どもと一緒に育てていくこともこの会に求められているのかとも思う。応援団の一員としても学校を支えたり、熟議で改善していけるよう取り組んでいきたい。

学校支援 CD より

家庭科や図工での取り組みや、来年度の1年生への「1 年生ツアー」の案内を出したことの報告があった。

来年度の学校運営の基本方針の説明

「楽しい授業を目指す」すべての出発点＝ゴール

○学校便り フェアリータイムズより

○学校経営構想「職員と子どもが幸せ」

基本方針 芳川小の形を貫く「自立と共生」

子どもと職員の安全を第一とする

子どもと職員に過度な負担がかからない配慮をしつつ、必要な活動は行う

○学校教育目標「夢に向かって ともにかがやく」

目指す学校の姿「自分らしさが輝く楽しい芳川小」

「元気な挨拶ニコニコスマイル芳川小」

「夢を高く掲げる芳川小」

○芳川小の課題 「動から静」へ定めていく

「鈴木道雄を卒業生に持つ学校の価値」

「働き方改革」

○目指す教職員の姿 「子どもを人として大切に」「仕事が充実している」

「厳正な服務危機管理を徹底する」「学校教育目標目指す学校像を達成する」

自分らしさが輝く○○ 元気な挨拶ニコニコスマイル○○ 夢を高く掲げる○○

(間宮)目標には2種類あって価値目標と到達目標がある。数値的なこと(到達目標)で示すこともやはり必要。分かりやすくするためにも価値目標に向かう到達目標を設定していただくことで取り組みやすい、評価しやすい目標になると思うので、学校教育目標も到達目標を設定してほしい。学校が楽しいというものを目指すならば、一番評価が低い子が0名になるように改善していくことが求められる。(読んで聞いても良いくらい)数値もまとめてしまうのではなく、4段階での数値を見せてもらいたい。形成的評価・・・現状を見て声を掛けることで次に行うことが分かるし、評価を行うことも大事になる。この評価も用いて子どもや保護者の現状をつかみ、目指す子どもの姿にも生かせるように取り組んで欲しい。

(麻里)連絡先を教えてください。「ほうがわクスノキ応援団」や CS ルームの案内を、時間のある時にでも話をしたいと考えている。

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

その他報告事項等

司会から、夢やらまいか CS 加算分の報告についての説明があった。

次回会議については、

2023年5月15日(月)13時30分から多目的室で開催する旨の報告があった。

2年目も会長・副会長は引き続き行うことので了承も得た。

次回も、鈴木麻里氏が議長を務める。